

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.85

2013.6.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.85 目次

平成 25 年度総会報告（収支報告）	2
WRV・役員の再任および新任について	3
WRV理事就任のご挨拶	3-4
平成 25 年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」	5
海上災害防止センター東日本災害対応拠点川崎基地披露式出席報告	6-7
水鳥救護研修センター 見学会の報告	8-9
平成 24 年度油污事故対策水鳥救護研修 実施報告	9-10
新エネルギー施設と生態系の保全	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

平成25年度総会報告（収支報告）

平成25年3月16日（土）に平成25年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、平成24年度収支報告・平成25年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告（特定非営利活動）

平成24年度収支報告書（平成24年1月1日から平成24年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	1,259,000	事業費	
事業収入	505,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	339,585
委託事業収入	8,000,908	②病性鑑定及び疫学調査	0
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	6,757,214
寄付金収入	46,871	④野生動物の傷病予防に関する事業	96,690
預金利息	6,424	⑤生物多様性の保全に関する事業	102,510
雑収入	344,942	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	225,280	⑦他団体との交流	130,000
		⑧収益事業原価	75,735
		管理費	1,953,007
		租税公課（消費税）	207,600
当期合計金額	10,388,425	当期合計金額	9,662,341
当期収支差額	726,084		
法人税等充当金	70,000		
前期繰越収支差額	32,301,645		
次期繰越収支差額	32,957,729		

<平成24年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業（水鳥救護研修・情報整備事業等）
- ・日本獣医生命科学大学、東京環境工科専門学校 等委託特別実習の開催
- ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集計、学会参加等
- ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施（共催）
- ・ボランティア向け講習会の開催
- ・関係団体との事業協力および事業への参加（本部、各支部）
- ・学術講習会の開催（東京都支部）
- ・ジャパンバードフェスティバルに出展（神奈川支部）
- ・神奈川県野生動物リハビリテーター養成事業（神奈川支部）
- ・大阪野生動物リハビリテーター養成事業（大阪支部）

ーその他

平成25年度予算案（平成25年1月1日から平成25年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	1,250,000	事業費	
事業収入	500,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	340,000
委託事業収入	8,000,000	②病性鑑定及び疫学調査	20,000
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	6,980,000
寄付金収入	50,000	④野生動物の傷病予防に関する事業	100,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関する事業	150,000
雑収入	250,000	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	150,000
		管理費	2,000,000
		租税公課（消費税）	300,000
当期合計金額	10,050,000	当期合計金額	10,050,000
前期繰越収支差額	32,957,729	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		時期繰越収支差額	32,957,729

WRV・役員の再任および新任について

本年3月と4月に行われましたWRV総会および理事会におきまして、役員等の再任ならびに新任の承認がなされました。以下に改めてその名簿を掲載いたします。任期は2年となっておりますので、会員各位には、以後改めてよろしくお願い申し上げます。（それぞれ五十音順で記載）

会 長	新妻 勲夫（新妻犬猫病院 院長）
副会長	大窪 武彦（おおくぼ動物病院 院長）
副会長	皆川 康雄（野生動物ボランティアセンター 所長）
理 事	小松 泰史（新ゆりがおか動物病院 院長）
理 事	田向 健一（田園調布動物病院 院長）
理 事	中津 賞（中津動物病院 院長）
理 事	馬場 国敏（馬場総合動物病院 院長）
監 事	倉林恵太郎（倉林動物病院 院長）
監 事	小森 輝於（小森会計事務所 所長）

上記のうち、新たに理事にご就任いただいた中津賞先生より、新任のご挨拶を頂戴しましたので、以下に掲載させていただきます。

WRV理事就任の御挨拶

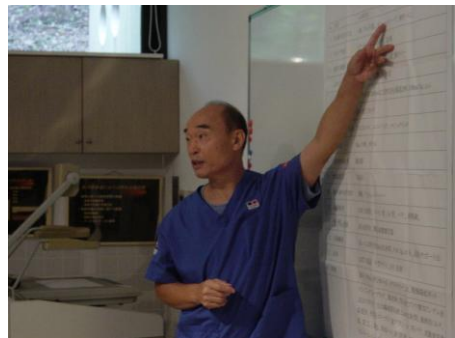
WRV 大阪支部長 中 津 賞

大阪府で40年以上に渡って野生動物の救護活動をしておりますWRV会員番号88の中津です。先の理事会で理事就任が承認されました。これからもよろしくご指導をお願い致します。

私の動物病院は、80万都市界の北西部にありますが、野生動物の年間の救護件数は100件を超えています。以前は毎年140件ありましたが、ヒナを捕らないでキャンペーンの効果でしょうか、かなり減ってきました。

WRV大阪支部では、ナホトカ号以来の油等流出事故に対応出来るボランティアを毎年養成してきました。その総数は数年前に既に700名を超えています。WRV本部の応援を得て、毎年25名程度を補充するために講習会を開催しています。

神奈川県で皆川先生が創設された野生動物リハビリテーターを大阪でも養成すべく、一昨年と今年で2回講習会を開催しました。獣医師、動物看護師、一般府民に呼びかけましたところ、20名程度を予定しておりましたが、いずれも25名の応募がありました。傷病の野生動物が発見された現場で、的確な処置が出来る事を目標にして、野生動物救護の基礎から応用技術まで、油汚染海鳥の講習会も含めて、7回の講習会と実習を月2回のペースで実施しました。午前は2時間の講義、午後は4時間の実習として、生体、死体を用いて徹底的に理論と技術を身につけてもらいました。例えば翼を骨折した鳥は、保護活動



中にも恐怖から騒いでさらに骨折部周辺組織を破壊してしまいます。いかに早く保定ができ、翼の抱え具合から、翼のどの部位に骨折があるか推定して、触診で確認する。そして消毒は必要か、どの消毒剤がよいのか、どの固定法が適正なのかを判断して血流障害を起こさない事に留意しながら包帯による固定を行う。こうして保護された鳥は動物病院に運ばれ、獣医師による診断と治療が行われます。獣医師による治療がどのように行われるのかを知っておく事も救護時の参考になりますので、髓内ピン、創外固定ピンあるいは両者を使った Tie-in 法などを実習してもらっています。こうした治療が奏功するには、骨折端が皮膚を突き破っていないこと。万一、突き破っていてもその先端が土砂等で汚染されていない事、骨折周辺の筋肉、腱の損傷が少ない事等が大変重要になります。そのため救護現場での行動が大切です。骨折端の先に砂が付いておれば滅菌生食等を流して、歯ブラシ等を使って徹底的に洗浄し、消毒液をつけたガーゼを当て、翼を本来の位置に整復して、8字包帯や、Body-Wrap 法でそれ以上の損傷を防ぎながら病院へ搬送出来れば野生にかえられる機会が増えます。断翼しなければならない状況や、その後の終生飼育は彼らの何の役にも持ちません。野生復帰し、繁殖して初めて我々の救護の目的が達せられるのですから。

ハトは実習対象としては、大きさ、体重、おとなしさ、耐久性等から理想的だと思っています。私の趣味の一つに鑑賞バトの飼育があります。スパニッシュ・ジャコビンとジャコンビン、ナン、オリエンタルフリル(アウル)を飼っています。この中から選んで実習に連れて行きます。孵化後7日くらいの開眼寸前のヒナを親から分離して育てています。親バトはヒナの分離後約10日で産卵して抱卵をはじめます。数ペア居るといつも保育器はヒナ鳥でいっぱいです。改良目標としてアウルにホワイトバーを入れたと思っています。レースバトのバスチン系シルキーホワイトバーを今年春先に入手出来ましたので、アウルと交配して、今その子供達が誕生しています。ホワイトバーは劣勢遺伝子なので、簡単には発現しません。戻し交雑やF1同士の交配等で形質の固定が出来たらと考えています。今では50羽を超えています。こうして毎日鳥達を世話していますと、とても鳥類臨床の参考になります。他に、ジュウシマツ、キンカチョウ、コキンチョウ、ブルーボタンインコ、ウスユキバトがそれぞれペアで居まして、沢山のヒナが生まれています。大阪ペピイ動物看護専門学校で鳥類の臨床看護学を教えていますので、その実習にハト達とともにこれらの小鳥も連れて行きます。少しでも鳥類に接してほしいためですが、中にはジュウシマツを見てスズメと言う学生が居ますので困ります。油汚染の時は神奈川支部のアイガモを使わせてもらって有り難く思っています。私の鳥達も実習用に必要でしたらいつでもお送りしますのでご連絡下さい。また無償でお譲りも出来ます。ぜひ貰ってください。以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

中 津 拝

中津 賞(なかつ すすむ)

中津動物病院院長 獣医師 獣医学博士

野生動物救護獣医師協会(WRV-Japan)理事・大阪支部長

NPO 法人 野鳥の病院 代表理事

日本野生動物医学会 評議員

大阪ペピイ動物看護専門学校講師 鳥類臨床看護学

〒590-0960 大阪府堺市堺区少林寺町西 2-2-15 ☎072-232-6472

URL: <http://www.nakatsuvet.com> e-mail: nakatsu@nakatsuvet.com

◆平成25年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」◆

WRV事務局 箕輪 多津男

WRVでは、本年度(平成25年度)もこれまでと同様に(公財)日本野鳥の会及び(公財)日本鳥類保護連盟との共催により、「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を実施いたしております。

本年度のキャンペーンに関して、当協会あてにご協賛いただきました団体(または企業)は、それぞれ以下のおりとなっております。ポスターにも既にご芳名を掲載させていただいておりますが、今回も多大なるお力添えを賜わり、誠にありがとうございました。ここに、改めて深く感謝の意を表します。

<ヒナを拾わないでキャンペーン／協賛団体リスト> (40団体：五十音順)

公益社団法人 愛知県獣医師会	公益社団法人 秋田県獣医師会
公益社団法人 石川県獣医師会	イソップ薬品 株式会社
公益社団法人 大阪市獣医師会	社団法人 大阪府獣医師会
社団法人 北九州市獣医師会	公益社団法人 岐阜県獣医師会
公益社団法人 京都市獣医師会	社団法人 京都府獣医師会
株式会社 共立商会	株式会社 キリカン洋行
社団法人 滋賀県獣医師会	公益社団法人 静岡県獣医師会
NPO 法人 自然環境アカデミー	高尾霊園犬猫墓地
公益社団法人 千葉県獣医師会	東京環境工科専門学校
公益社団法人 東京都獣医師会	公益財団法人 動物臨床医学研究所
社団法人 栃木県獣医師会	公益社団法人 長崎県獣医師会
中津動物病院	公益社団法人 名古屋市獣医師会
公益社団法人 新潟県獣医師会	公益社団法人 日本獣医師会
公益社団法人 日本動物病院福祉協会	文永堂出版 株式会社
公益社団法人 北海道獣医師会	公益社団法人 三重県獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク	ムナテックス 株式会社
メリアル・ジャパン 株式会社	森久保薬品 株式会社
野生動物ボランティアセンター	野生動物リハビリテーター協会
公益社団法人 山口県獣医師会	株式会社 吉元
予防医学教育研究所	公益社団法人 和歌山県獣医師会

会員の皆様には、前号のニュースレターとともに既にポスターをお送りいたしました、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、今後ともその普及のためにご協力いただければ幸いに存じます。

昨今の気候や環境の変動、あるいはそれぞれの地域における開発行為を含めた様相の変貌等の影響もあつてか、野鳥を始めとする野生動物の生息状況や生態にも、大きな変動が見受けられております。外来種問題への対応を含め、やはり人と野生動物とのよりよき共生関係を構築していくためには、より一層の努力が求められますので、本協会では、それに少しでも貢献すべく、永続的に活動を展開していきたいと考えている次第です。

なお、WRVでは傷病野生鳥獣の救護活動につきまして、引き続き尽力してまいる所存ですので、皆様のご支援とご協力を、改めてお願い申し上げます。

海上災害防止センター東日本災害対応拠点川崎基地披露式出席報告

WRV 副会長 皆 川 康 雄

去る 3 月 26 日（火）神奈川県川崎市川崎区東扇島にて、(独)海上災害防止センター「東日本災害対応拠点川崎基地」披露式が執り行われ、出席しましたので報告いたします。

皆様もご存じのとおり、東日本大震災では千葉県内で発生した石油コンビナート火災に伴うアスファルト流出の際、海上災害防止センターが消火活動・油防除活動を行うとともに、スズガモの救護活動にも当たってくださいました。その一方で東北の基地が津波被害に遭い、資機材の確保が困難になるという事態が起こっていました。

こうした海上災害対応の教訓を生かして、今後の巨大地震災害や大規模事故を視野に入れた対応態勢の強化策として、西日本に「北九州」「堺泉北」そして東日本に「川崎」の計 3 基地を災害対応拠点として拡充することになったというわけです。この災害対応拠点の整備によって、本州、四国、九州においては 24 時間以内に「安全措置、消防措置及び防除措置」に必要な最低限の機械器具、資材及び物資、工具等を供給できる体制が整ったということです。

披露式当日は、自治体や海上保安庁の関係者など約 100 人が出席し、海上災害防止センター理事長、第 3 管区海上保安本部長や川崎市の副市長があいさつし、盛大な式典となりました。



東日本災害対応拠点・川崎基地の外観



披露式会場の様子(川崎基地内)

式典後、資機材が披露され見学しました。この川崎基地には、被害を最小限に食い止めるための最新の資機材が多く備蓄されていました。

例えば、

- ・耐火オイルフェンス：海上に流出した油を囲って現場で直接焼却して処理します。
- ・エアポート：がれきなどが流れ込んで通常の船舶が進めない海面や湿地などで使えるプロペラ付の水陸両用船舶です。
- ・油回収車：海岸に漂着した油等を回収するポンプ付きの車両。付属のレシーバータンクを用いることでドラム缶に回収物を投入することができ、連続した作業ができます。

その他に、ぜひ皆さんに知っておいていただきたい資機材があります。それは、油に汚染された野生動物に対する資機材です。以下に紹介します。

野生動物保護装置 (Wildlife Rescue System)

用途：油などに汚染された野生動物の一時飼育やリハビリに使用する資機材。

概要：1 式につき 3 つの収容タンクがあるため、汚染された野生動物を汚染レベルごとに振り分けることが可能。また段階的リハビリを行うことも可能。

ポイント：コンパクトであるため、現場への搬送が容易。工具不要でコツさえつかめば少人数の作業員で組立て可能。循環ポンプ、生物ろ過フィルターが備え付けられており、水を循環しフィルターろ過することにより、一時飼育やリハビリをする環境の維持が可能。野生動物用の休憩用浮体を常備。

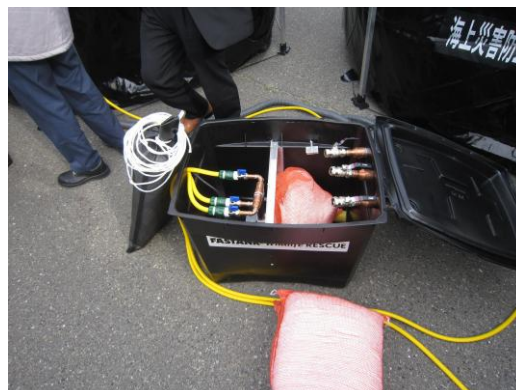
国内配備基地：2 式（川崎基地 1 式および大阪府堺泉北基地 1 式）

1 式の構成：保護野生動物収容タンク×3、循環ポンプ、生物ろ過フィルター、パイオタブレット

＜「2013 海上災害対応資機材 BOOK」（海上災害防止センター発行）より抜粋＞



野生動物保護装置



フィルターボックス

世界的にみれば、油流出事故に伴う油汚染の水鳥を救護する行為は、常識的であり、洗練されたシステムができあがっていますが、日本においてははまだ途上である中で、海上災害防止センターがこうした野生動物救護のための資機材を備蓄することは、画期的であると言えます。改めて海上災害防止センターの富賀見栄一理事長をはじめ、防災部職員の方々に対しまして、この英断に敬意を表したいと思います。

今回の資機材の披露中、司会進行の萩原防災部長より、突然私の名前が呼ばれ、野生動物保護装置の披露とともに紹介されるという思いがけないことがありました。普段野生動物とは縁の遠い自治体幹部、消防防災関係者、海上保安関係者にこの野生動物保護装置の重要性とともに WRV の存在を知らせることができたことは何よりも有益なことでした。

現在、WRV では環境省水鳥救護研修センター「油汚染等事故対策水鳥救護研修」において、海上災害防止センターとともにこの野生動物保護装置を用いての実習を行い、有事の際に備えております。ぜひ、皆様にも研修を受けていただき、この保護装置の素晴らしさを実感していただきたいと思います。

最後に、今回の披露式にお招きくださいました(独)海上災害防止センター・防災部の萩原貴浩部長に深く感謝申し上げます。

水鳥救護研修センター 見学会の報告

WRV 事務局 鈴木 麻衣

3月19日、日野市郷土資料館・七生丘陵調査団の方が（10名）、水鳥救護研修センターの見学会にお越しくださいました。

見学会では、研修で使用する洗浄実習の用具など水鳥救護研修センターの施設・設備をご覧頂き、研修開催や文献収集等の活動をご紹介します。

また、水鳥救護研修センターの事業を請け負う WRV の活動の一環として、カルテ集計についてご紹介いたしました。皆様、普段から自然観察をされていて、野鳥にもご興味がお有りとのことで、傷病野生鳥獣の診療カルテに絶滅危惧種が含まれていることに、興味を持たれたご様子でした。



日野市郷土資料館・七生丘陵調査団の皆様



講座の様子



重油を用いた実験

また、後日、七生丘陵調査団の方から日野市地域教育力育成団体・なお「土曜のひろば」遊学会（ゆうがくかい）をご紹介します、5月11日、小学生を対象とした見学会を開催しました。

「土曜のひろば」は、日野市教育委員会の地域教育力活性化事業として発足された団体で、地域の子ども達を対象に、地元のボランティアの方々が運営されています。隔週での活動で、自然観察・科学講座、木工工作講座、初歩の電子工作講座、ふるさと歴史探検講座の4講座があるそうで、平成16年に東京都「心の東京革命」推進モデル事例事業となり、平成17年には東京都知事より団体表彰の感謝状を授与されました。

見学会では油汚染鳥救護についてのミニ講座を行いました。冒頭で知っている野鳥の種を尋ねたところ、スズメ、ハシブトガラス、アビ、ツミ等の名が挙がりました。また、いくつかクイズを出しましたが、野鳥に関する問題は正解率がとても高かったです。参加した子どもたちは、多摩丘陵の素晴らしい環境が身近にあるせいか、生き物が好きで、野鳥についても詳しく印象でした。

「私たちの暮らしに欠かせない石油ですが、ひとたび油等流出事故が発生してしまうと、水鳥が汚染されてしまうことがあります。油に汚染された水鳥を一羽でも多く救えるよう、救護活動が出来る人が一人でも多く増えるように、水鳥救護研修センターでは研修を実施しています。地震等の防災訓練と同じように、日頃からの準備が大切です。」ミニ講座では、これらの事をお伝えしました。

水鳥洗浄の道具紹介では、実習で使用している道具を並べ、説明しながら実際に触ってもらいました。日常生活で触れる機会の無いタイベック(作業用防護服)については、「紙みたい」「ペラペラ」等のコメントが挙がり、興味を誘ったようです。

重油を用いた実験の際は、重油が入った瓶の蓋を開けたとたん、臭いに顔をしかめていました。他の研修で同様の実験を行う場合、大人は顔の近くまで瓶を持って行かないと、臭いが届かない事

が多いので、子どもたちの感覚の鋭さを目の当たりにしました。油汚染鳥を洗う場合はお湯を使う為、更に匂いが立ち込めると話したら、「凄くくさそう…」と、顔を思い切りしかめていました。



装備についての説明



乾燥機の説明

短い時間の見学会でしたが、油汚染鳥や水鳥救護について、少しでも関心を持ってもらうきっかけとなれば幸いです。

今後も、普及啓発のため随時見学会を実施していきたいと思っておりますので、ご興味をお持ちの方は、是非、水鳥救護研修センター（東京都日野市：042-599-5050）までご連絡ください。

平成 24 年度油等汚染事故対策水鳥救護研修 実施報告

WRV 事務局 鈴木 麻衣

平成 24 年 10 月 23 日・24 日、12 月 11 日・12 日、平成 25 年 1 月 22 日・23 日、それぞれ第 1 回から第 3 回までの油等汚染事故対策水鳥救護研修（環境省）を、東京都日野市の環境省水鳥救護研修センターで開催しました。

講義内容の充実を図る為、「鳥獣保護行政担当者向け」と「現場救護リーダー向け」に分けて実施し、獣医師、動物園水族館関係者、鳥獣保護行政担当者、環境保護団体関係者など、各方面から多くの方々にご参加頂きました。

研修においては、行政の油等汚染事故対応をはじめ事故発生のメカニズム、油の処理法、水鳥の生態や油汚染された水鳥の救護に関して等、幅広い領域について学んで頂き、実際の救護現場に従った生体（アイガモ）の身体検査・洗浄や、重油の実験、野生復帰リハビリプールの組立て・撤去の実習も経験して頂きました。



研修における講義の様子

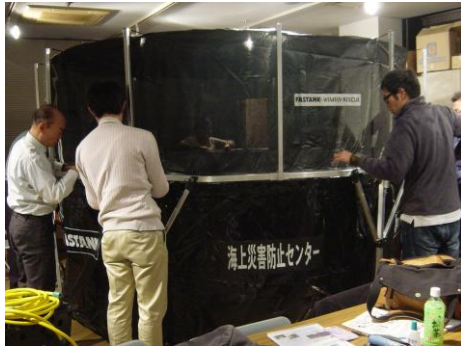


水鳥の洗浄実習

特にリハビリプール実習の際は、昨年、(独) 海上災害防止センターが導入した「ワイルドライフ・レスキュー・システム」(以下、WLRS) における水鳥救護専用のプールを用いて実施しました。

同センターと WRV は、油等汚染事故対応において協力関係を確立しており、今後も、野生動物の洗浄・リハビリが必要な場合は WRV が中心となって、WLRs を活用することとなりました。従来のリハビリでは農業・防災用の貯水プールを転用しており、鳥の羽や糞等のゴミを手作業で除去しなければなりませんでした。WLRs には循環ポンプや生物濾過フィルターが備わっているため、自動で水質を保つことが出来ます。その他にも飛翔防止用ネットが付属していたり、野生復帰リハビリに欠かせない様々な機能を備えた、専用のプールとなっています。

実習において、まだ国内で数少ない野生復帰リハビリ専用のプールに、実際に触れる事が出来たのは、研修生にとって貴重な機会になったのではないかと思います。



水鳥救護専用・リハビリプールの展張実習の様子

平成 25 年 2 月 22 日には、新潟県「新潟ユニゾンプラザ」研修室にて、現地研修を開催しました。日本海側では海難事故が比較的多く発生しているものの、その日本海に面した新潟県においては、これまで研修が行われたことがありませんでしたので、今回は、大変意義のある開催になったのではないかと捉えております。

当日は、獣医師、動物園水族館関係者、鳥獣保護行政担当者などの方々がご参加くださり、充実した時間を過ごされた様子でした。また、参加者募集に際し、(独) 海上災害防止センターから第九管区海上保安本部・新潟海上保安部に告知して頂いた事もあり、同保安部からのご参加もいただきました。

海難事故の情報が環境省水鳥救護研修センターに入った場合、担当されている海上保安部や県の鳥獣保護担当部局に連絡し、油流出の有無や野生鳥獣への被害について等、その都度状況を確認しています。今回の現地研修を機に、新潟県の野生鳥獣担当部局である県民生活・環境部環境企画課や、新潟海上保安部と繋がりを築けたことは、今後の活動において、重要な成果となりました。



新潟県環境企画課の担当者によるご挨拶



現地研修における講義の様子

平成 24 年度の油等汚染事故対策水鳥救護研修にご参加頂いた方々には、研修で得られた知識、技術や人脈を、水鳥救護における体制づくりや現場での活動に活かして頂けますよう、願っております。

研修開催に当たり多大なご協力を賜りました、(独) 海上災害防止センター、日本環境災害情報センター、(公財) 日本野鳥の会、新潟県県民生活・環境部環境企画課、新潟海上保安部等の皆様方に、心から御礼申し上げます。

新エネルギー施設と生態系の保全

東日本大震災と未曾有の大津波による福島第一原子力発電所の事故による悲惨な状況や、世界で繰り広げられている石油等をめぐる様々な軋轢、そして地球の限りある資源の枯渇に対する懸念が高まってきている状況などを目の当りにして、今、風力発電や太陽光発電といったいわゆる新エネルギーに対して人々の熱い視線が注がれるようになってきております。確かに、風や太陽光などの無尽蔵とも言われるエネルギー源を活用し、かつそれがこれまでの発電設備等と比較して、環境に対する影響の少ないクリーンなものであるならば、推進していくことに反対する理由はありません。コストの問題や、風力発電機および太陽光パネルの製造に関わる問題は置くと、日本における全発電量のうち、それ程大きなものではなくとも、一定の割合を、こうした新エネルギーで賄っていくとする方向性自体は、決して間違っていないでしょう。

ただし、そうした新エネルギーの施設を設置する場合に、最も心配されるのが、その地域の生態系への影響です。既に風力発電所の設置に絡んでは、例えば北海道などではオジロワシを始め多くの猛禽類やカモメ類等がストライクによる犠牲になっており、また米国のカリフォルニア州では、毎年 80 羽以上のイヌワシが同様のストライクにより命を落としています。また、ヨーロッパを含めた洋上風力発電所においては、各地で海鳥類の犠牲が確認されるなど、恐らく未確認の分も含めるとかなり大きな被害が発生している可能性があります。一方、太陽光発電所を設置する場合、大きな電力量を生み出すためには、広大な土地に多数のパネルを設置する必要があるため、国内外の各地において、発電所設置に伴う森林の伐採や自然植生の破壊が表面化してきております。

このようにせっかくクリーンなエネルギーの推進を図っていかうとしても、その結果においてそこに生息する野鳥を始めとする野生動物や、彼らの生息環境、そして総体としての生態系を破壊するようなことがあっては何もありません。新エネルギーを享受する人間の側が、人間の姿しか視野に入れずに、施設を設置しようとする土地の環境や生態系をないがしろにしているはずがないのです。生命の星と呼ばれる地球上にあっては、まさに本末転倒の姿となってしまうのです。

従って、風力や太陽光などの新エネルギー施設を設置していくにあたっては、特に地球環境や生態系の破壊を極力避けられるよう、十分な事前の調査・検討を前提として行っていただくこと、そして、設置後には、永久的なモニタリング調査等の継続により、その後の周辺環境における生態系の保全を保証していくことを、世界中の事業者等の方々には、是非責任を持って実行していただきたいと強く要望する次第です。

なお、読者の皆様にも、日々の生活における省エネの実行を含め、野生動物や生態系の保全を視野に入れた形で、こうした新エネルギーの問題を考えていただければと願う次第です。

(箕 輪)



【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者（敬称略） （平成 25 年 3 月 1 日から平成 25 年 5 月 31 日）

○寄付金（一般）2013.3.19 中村富士子 10,000 円

○寄付金（人災）2013.4.2 アミ動物病院（安田 剛） 8,846 円

○寄付金（一般）2013.5.24 東京港野鳥公園フェスティバル（募金箱） 2,000 円

○寄付金（神奈川支部）2013.3.5 小栗雅之 2,000 円 亀井裕樹 2,000 円 曾根友希恵 2,000 円

東川翔太 2,000 円 吉濱枝里 2,000 円

○寄付金（神奈川支部）2013.3.24 春の動物園まつり（募金箱）682 円 神奈川県野生動物リハビリテーター 4,800 円

事務局日誌 2013.3.17～2013.6.15

=== 3 月 ===

17：神奈川野生動物リハビリテーター研修会〔神奈川支部〕

対応：皆川

18：動物愛護推進員研修会（東京都庁 第二庁舎ホール）

出席：新妻

19：日野市郷土資料館・七生丘陵調査団見学会（水鳥救護研修センター）

対応：鈴木

24：春の動物園まつり（夢見ヶ崎動物公園）に参加 [神奈川支部]	対応：皆川
25：神奈川県に生息する中型哺乳類勉強会 [神奈川支部]	対応：皆川
25：WRV ニュースレターNo.85 発行	
26：平成 24 年度「水鳥救護研修・情報整備事業」報告書 提出（環境省）	対応：鈴木
29：日本獣医学会総会（東京大学駒場キャンパス講堂）	出席：新妻
==== 4 月 ====	
01：平成 25 年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」スタート	対応：箕輪
01：平成 25 年度「水鳥救護研修・情報整備事業」契約締結（環境省）	対応：鈴木
03：東京都鳥獣保護員 任命式（東京都庁 第一本庁舎）	出席：新妻
05,06,11：テレビ朝日取材「繁殖シーズンを迎えたトビの生態と被害の実態について」[神奈川支部]	対応：皆川
07：丹沢札掛地区「丹沢シカカウント法による個体数調査」[神奈川支部]	参加：皆川
13,22：神奈川県に生息する中型哺乳類勉強会 [神奈川支部]	対応：皆川
14：神奈川県野生動物リハビリテーター（2 級）更新講習会 [神奈川支部]	対応：馬場、皆川
17：石原由貴司法書士・行政書士打合せ（村重石原合同司法書士事務所）	対応：新妻、箕輪
21：ミゾゴイガイド（野毛山動物園）[神奈川支部]	対応：皆川
26：第 14 回わいわいサロン「リハビリテーターとして今思っていること」[神奈川支部]	対応：皆川
28：トビ被害防止普及ビデオの撮影 [神奈川支部]	対応：皆川
==== 5 月 ====	
06,18：ミゾゴイガイド（野毛山動物園）[神奈川支部]	対応：皆川
08：動物愛護推進員研修会（東京都庁 第一本庁舎）	出席：新妻
11：日野市 ななお「土曜ひろば」遊学会・小学生見学会（水鳥救護研修センター）	対応：鈴木
14：石原由貴司法書士・行政書士打合せ（立川事務所）	対応：箕輪
14：自民党動物医療政策研究会（東京都議会棟）	出席：新妻
17：自民党定期大会（練馬文化センター）	出席：新妻
18：リハビリテーター対象の傷病施設（動物病院）見学会（野毛山動物園）[神奈川支部]	対応：皆川
20：東京都傷病鳥獣救護に関する交渉（（公社）東京都獣医師会）	対応：箕輪
20：平成 25 年度事業打合せ（（公社）日本獣医師会）	対応：箕輪
25,27：神奈川県に生息する中型哺乳類勉強会 [神奈川支部]	対応：皆川
26：第 1 回東京港野鳥公園フェスティバル（東京港野鳥公園）[東京都支部]	対応：新妻、箕輪
29：明治学院大学生一日体験に向けた事前学習（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
==== 6 月 ====	
01：神奈川県野生動物リハビリテーターさし餌講習会（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
01：野毛山ドリームナイトイベント（野毛山動物園）[神奈川支部]	対応：皆川
01：山加朱美都議会議員 報告会（練馬区役所多目的ホール）	出席：新妻
02：コアジサシのコロニー保護のための看板設置 [神奈川支部]	対応：皆川
05：専門学校生一日体験学習（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
05-8/31：海ゴミ展（ズーラシア）[神奈川支部]	対応：皆川
07：民主党大会（練馬文化センター）	出席：新妻
09：トビの問題を考える野外観察会 [神奈川支部]	対応：皆川
13：県立高校出張授業「傷つく野生動物のためにできること」[神奈川支部]	対応：皆川
15：明治学院大学生一日体験学習（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部]	対応：皆川

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 85 2013.6.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄